

仙人通信 222 陣見山 (531m)

陣見山は、先に登った長瀬の宝登山と鐘撞堂山の中央に位置し、三角点を持つ山である。かんぼの宿寄居の駐車場に車を置き、すぐ横の登山口から虎ヶ岡城跡→大槻峠→陣見山→榎峠の近くの車道に降り、樋口駅から電車で隣の波久礼駅を利用し車に戻るコースとした。雑木林の中の1mも無い登山道を20分程進むと最初のピークで小さな祠に弁財天が祀られている。10分程で2つ目のピークで檜等の梢越しではあるが、荒川と長瀬へと繋がる国道が真っすぐ伸びているのが見える。更に10分程で3つ目のピークでコースが左側に曲がり、東側は檜の林となる。又10分程で4つ目のピークとなる。鞍部を過ぎた頃からかなり急な登りだ。露出している岩は、青白状で縞が入った天紋片岩で長瀬から鬼石まで続いているらしい。10cm程の丸太を2段積んだかなり急な勾配を144段登ると四阿の立つ虎ヶ岡城址で、スタートから65分である。このコースでは唯一見晴らしが良い休憩所だそうだが、開けているのは北東部の赤城から日光方面のみで、他は梢越しの視界だ。

この城は戦国時代の前に花園城の支城として築かれ、戦国時代に北条氏の鉢形城の支城となったと案内板にある。周囲の木々が無ければ最高の展望である事を教えてくれる。ここからは登り同様に急勾配の下りで南に伸びる尾根の先には両神山から大平山(長瀬カントリークラブ)までが望めた。

小さなピークを過ぎ20分程で大槻峠だ。ここには安永九年に祀られた馬頭観音があり、かつての峠路を感じるも右手にアスファルトの道路と寂しい。ここからは児玉側は太い檜林である。急な坂にはロープが張られたコースで4つのピークを過ぎた所で道路と交差(約50分程)し、更に太い檜林の中を20分程登った所が陣見山の山頂だ。

山頂の道標の横には埼玉放送の中継用パラボラアンテナと機材小屋があり、その周囲を檜の林が囲み眺望は‘0’状態である。三角点はあるものの等級は不明でした。

(ガイドの本で木の中の小さな山頂と言うことは知っていましたが・・・残念)

休憩後、榎峠に向う。急な下りを過ぎ15分程で最初のピークで、梢越しではあるが赤城・榛名・荒船から両神山辺りまでが確認できた。10分程で再度車道を横切り、二つのピークを過ぎて車道に下りた所が榎峠だ。ロータリークラブが植樹した榎が1本あるのみだ・・・?。馬頭観音が祀られた先の登山道を12分程下ると先程の車道である。

この車道を樋口駅に向けて丁度1時間歩いた。この時期、登山道では赤い実のヤブコウジしか見つけられなかったが、民家の周囲のロウバイの花に心癒された4時間半(22000歩)の山旅となりました。

(R4.1. 17)

かんぼの宿からの陣見山 登山道入り口



城跡から赤城方面



山頂

